2011年3月期決算
中期経営計画2013 説明会

2011年5月16日
宝ホールディングス株式会社

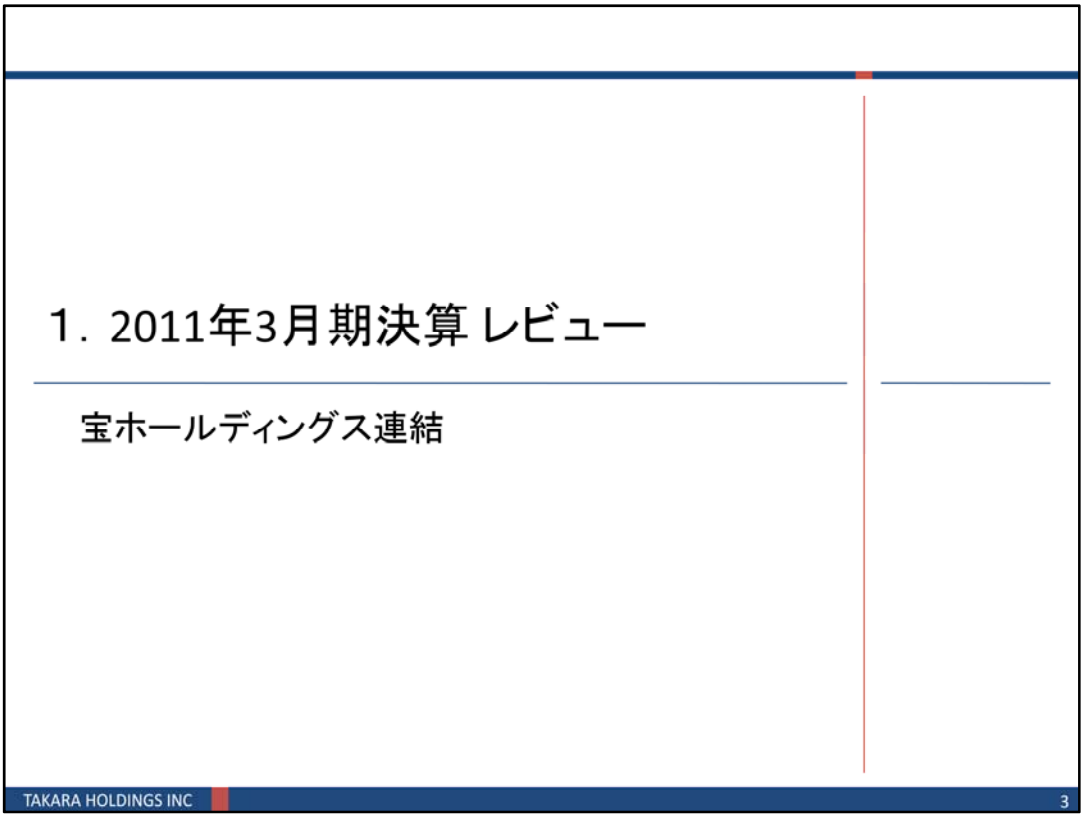
・宝ホールディングスの大宮です。
・本日はお忙しいところ、TaKaRaグループの2011年3月期決算および中期経営計画2013の説明会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

本日の内容

1. 2011年3月期決算 レビュー
   - 宝ホールディングス連結
   - 宝酒造グループ
2. TaKaRaグループ中期経営計画2013
   - 第7次中期経営計画 レビュー
   - 中期経営計画2013 概要
3. 宝酒造グループ中期経営計画2013
4. 2012年3月期 業績予想
   - 宝酒造グループ
   - 宝ホールディングス連結

TAKARA HOLDINGS INC 2

・本日は、ご覧の順番で説明します。



・宝ホールディングス連結の2011年3月期決算について説明します。

宝HLD連結_P/L概要（2011年3月期）

（単位：百万円）	11/03期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)	11/4予想比 増減	11/4予想比 率(%)
宝酒造G	166,790	△ 179	△ 0.1	△ 2,509	△ 1.5
タカラバイオG	18,737	△ 588	△ 3.0	△ 162	△ 0.9
宝ヘルスケア	2,567	81	3.3	17	0.7
その他	1,673	△ 69	△ 4.0	23	1.4
売上高	189,769	△ 755	△ 0.4	△ 2,630	△ 1.4
売上原価	115,480	△ 325	△ 0.3	△ 1,319	△ 1.1
売上総利益	74,289	△ 430	△ 0.6	△ 1,310	△ 1.7
販管費	65,953	△ 193	△ 0.3	△ 846	△ 1.3
宝酒造G	6,568	△ 560	△ 7.9	△ 731	△ 10.0
タカラバイオG	1,097	544	98.4	297	37.2
宝ヘルスケア	△ 252	64	ー	47	ー
その他	921	△ 284	△ 23.6	△ 78	△ 7.8
営業利益	8,335	△ 237	△ 2.8	△ 464	△ 5.3
経常利益	8,427	△ 299	△ 3.4	△ 472	△ 5.3
当期純利益	3,788	△ 889	△ 19.0	△ 911	△ 19.4

●トピックス（11/4予想比）

＜総括＞
宝酒造グループの計画未達が響き、グループ全体でも計画未達。

＜宝酒造グループ＞
景気低迷・デフレ・東日本大震災などの影響により、計画未達。

＜タカラバイオグループ＞
売上高は計画未達となったが、営業利益は大幅に伸長し、過去最高を記録。

＜宝ヘルスケア＞
赤字ながら利益改善。

TAKARA HOLDINGS INC 4

・前期比では、売上高は宝酒造グループ・タカラバイオグループともに減収となり、グループ全体では755百万円減収の189,769百万円となりました。
・営業利益は、タカラバイオグループで過去最高益となりましたが、宝酒造グループの減益が響き、グループ全体では前期比237百万円減益の8,335百万円となりました。
・当期純利益は、震災による特別損失を計上したことなどが影響し、前期比889百万円減益の3,788百万円となりました。

・昨年11月4日に発表した業績予想と比較すると、震災の影響も含め、宝酒造グループで計画未達となり、グループ全体でも売上高・利益ともに計画未達となりました。

宝HLD連結_営業外・特別損益（2011年3月期）

●営業外損益

（単位：百万円）	10/03期 実績	11/03期 実績	増減
営業外収益	923	923	△ 0
受取利息	176	144	△ 31
受取配当金	309	328	18
持分法投資利益	―	76	76
為替差益	81	―	△ 81
その他	355	373	17
営業外費用	769	831	62
支払利息	254	227	△ 26
社債利息	323	339	16
棚卸資産廃棄損	16	29	12
持分法投資損失	50	―	△ 50
社債発行費	―	76	76
為替差損	―	22	22
その他	124	136	11
営業外損益収支	154	92	△ 62

●特別損益

（単位：百万円）	10/03期 実績	11/03期 実績	増減
特別利益	137	567	430
固定資産売却益	8	72	64
投資有価証券売却益	105	417	311
その他	23	77	54
特別損失	655	1,489	834
投資有価証券評価損	81	254	172
固定資産除売却損	300	238	△ 61
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	―	424	424
震災による特別損失	―	396	396
係争和解費用	―	113	113
減損損失	127	―	△ 127
その他	146	61	△ 84
特別損益収支	△ 518	△ 922	△ 403

●東日本大震災の影響

＜生産拠点＞ 宝酒造㈱松戸工場の一部設備に軽微な損傷
☞直ちに修復し、震災翌週より稼働

＜物流拠点＞ 宝酒造㈱東日本物流センターの 自動倉庫に損傷（修復作業中）
☞一時的に一部製品の配送に遅れが発生
☞別の物流拠点より配送

●震災による特別損失 （単位：百万円）

宝酒造（単体）395 ― 設備復旧費用 188、棚卸資産評価減等 189、その他 17

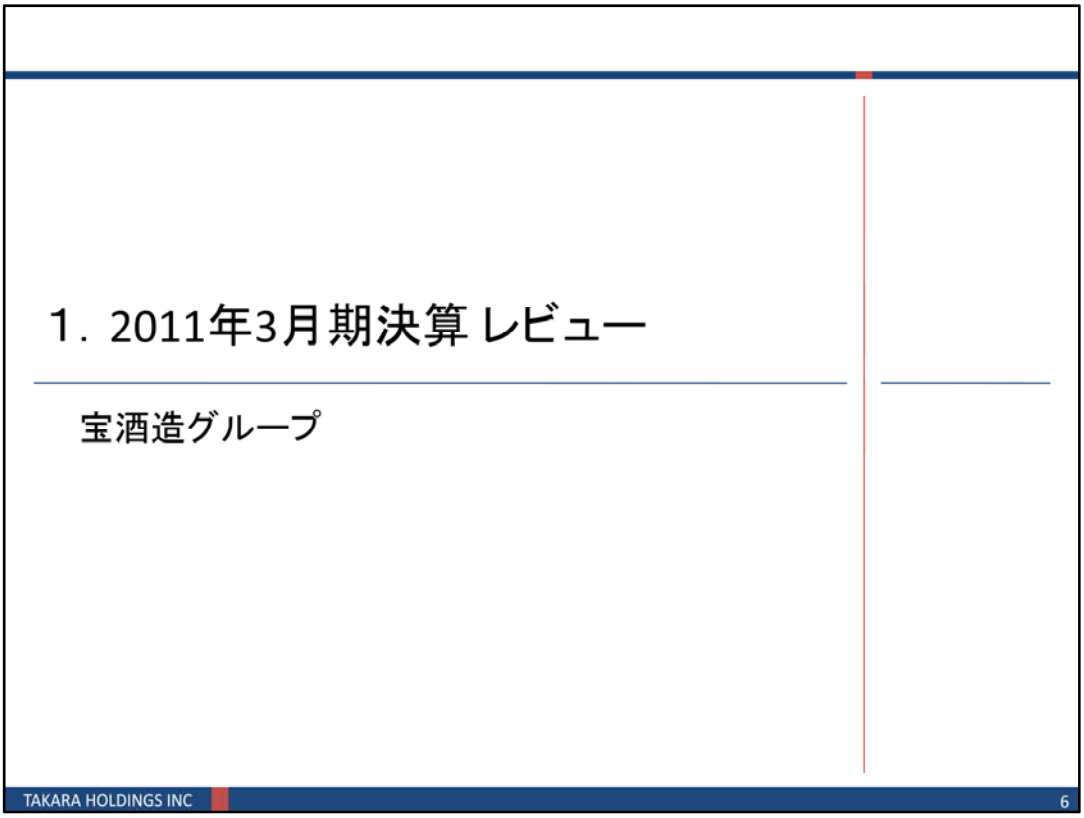
その他の子会社 1

TAKARA HOLDINGS INC 5

・営業外および特別損益の概況です。

・当期は特別損失において、投資有価証券評価損や、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額に加え、震災による特別損失を計上し、特別損益は▲922百万円となりました。

・なお、生産・供給体制への影響については、宝酒造の生産拠点・物流拠点において一部損傷があり、一時的に製品の配送に遅れが生じましたが、今期の生産・供給体制への影響は軽微なものであると考えています。



・宝酒造グループの2011年3月期決算について説明します。

宝酒造G_P/L概要（2011年3月期）

（単位：百万円）	11/03期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)	11/4予想比 増減	11/4予想比 率(%)
焼酎	72,695	△ 3,518	△ 4.6	△ 2,104	△ 2.8
清酒	20,796	△ 426	△ 2.0	96	0.5
ソフトアルコール飲料	22,252	966	4.5	△ 447	△ 2.0
その他酒類	9,674	△ 60	△ 0.6	174	1.8
本みりん	14,931	△ 95	△ 0.6	△ 68	△ 0.5
その他調味料	7,090	534	8.2	△ 9	△ 0.1
原料用アルコール等	6,275	51	0.8	△ 124	△ 1.9
その他	13,073	2,369	22.1	△ 26	△ 0.2
売上高	166,790	△ 179	△ 0.1	△ 2,509	△ 1.5
売上原価	104,202	156	0.2	△ 1,297	△ 1.2
売上総利益	62,587	△ 335	△ 0.5	△ 1,212	△ 1.9
運送費、保管料	6,368	75	1.2	△ 31	△ 0.5
広告宣伝費	3,276	△ 429	△ 11.6	△ 123	△ 3.6
販売促進費等	29,845	390	1.3	△ 454	△ 1.5
研究開発費	388	16	4.4	△ 111	△ 22.4
管理費、その他	16,140	173	1.1	240	1.5
販管費	56,018	224	0.4	△ 481	△ 0.9
営業利益	6,568	△ 560	△ 7.9	△ 731	△ 10.0

●売上高の主な増減理由

【宝酒造単体・前期比】

（単位：百万円）

＜焼酎＞	
焼酎甲類	▲2,175
焼酎乙類	▲1,191
＜ソフトアルコール飲料＞	
焼酎ハイボール	+2,490
＜その他調味料＞	
料理清酒	+382
＜その他＞	
フーデックス社（新規連結）	+2,531

●酒類の市場動向（2010年1-12月）

品目	前年比（数量）
焼酎甲類	▲2.7%
焼酎乙類	▲4.7%
焼酎合計	▲3.8%
清酒	▲6.5%
ソフトアルコール飲料	+8%程度
本みりん	▲2.4%

*2010年1-12月の課税移出数量の前年比（国税庁速報値）、ソフトアルコール飲料は2010年1-12月の市場規模の前年比（醸造産業新聞社調べ）

＜営業利益率＞

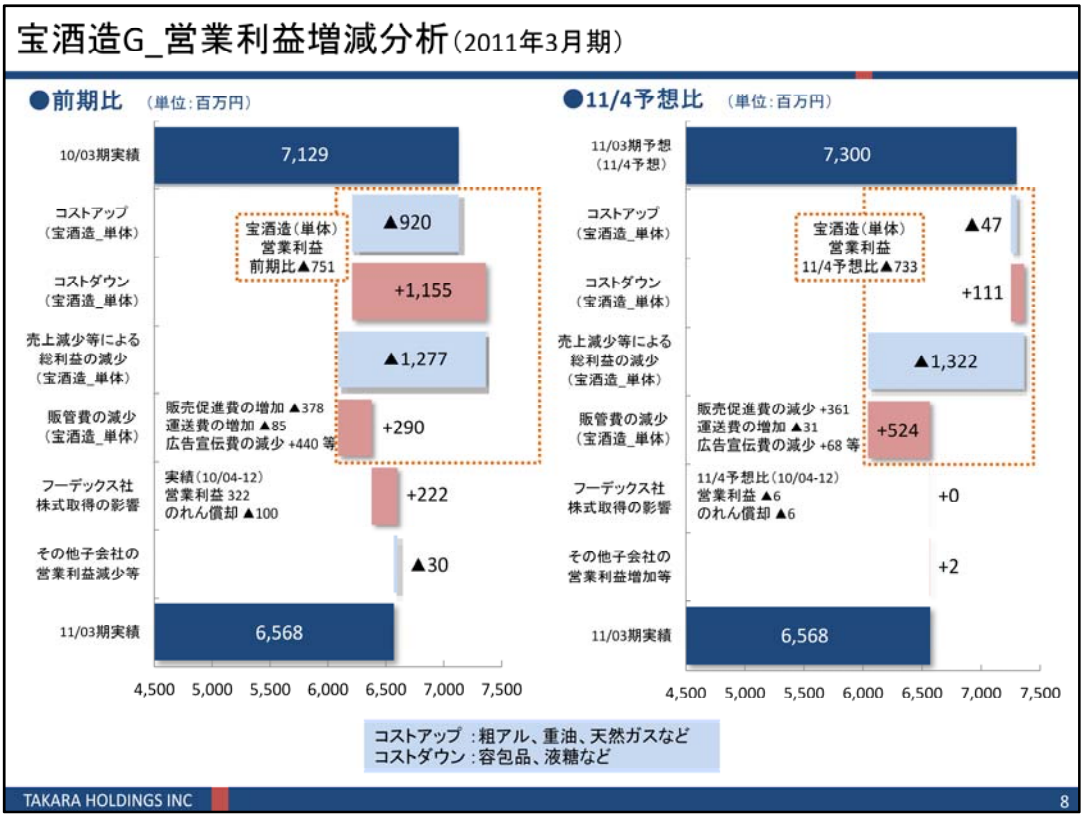
11/03期 実績	前期差	11/4予想差
3.94%	-0.33p	-0.37p

TAKARA HOLDINGS INC 7

・前期比では、焼酎ハイボールが好調だった『ソフトアルコール飲料』で966百万円の増収、料理清酒が好調だった『その他調味料』で534百万円の増収、フーデックス社の売上が加わった『その他』で2,369百万円の増収となりましたが、『焼酎』で3,518百万円の減収となったことが響き、売上高は前期比179百万円減収の166,790百万円となりました。

・営業利益は、前期比560百万円減益の6,568百万円となりました。

・焼酎については、数量ベース・金額ベースともに市場並と推定されますが、減収となりました。



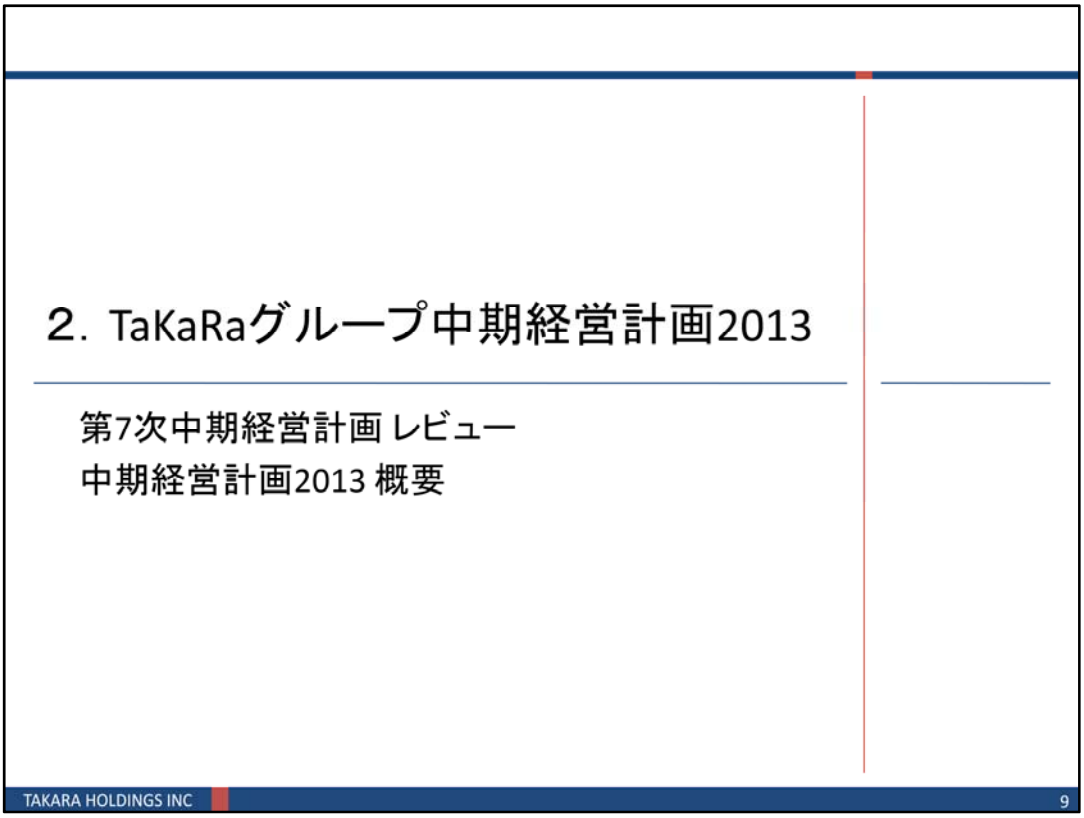
・営業利益の増減分析です。

・前期比では、コストアップが920百万円、コストダウンが1,155百万円となり、差引235百万円のコストダウンとなりましたが、売上減少等による総利益の減少が1,277百万円となり、宝酒造単体の営業利益は前期比751百万円の減益となりました。

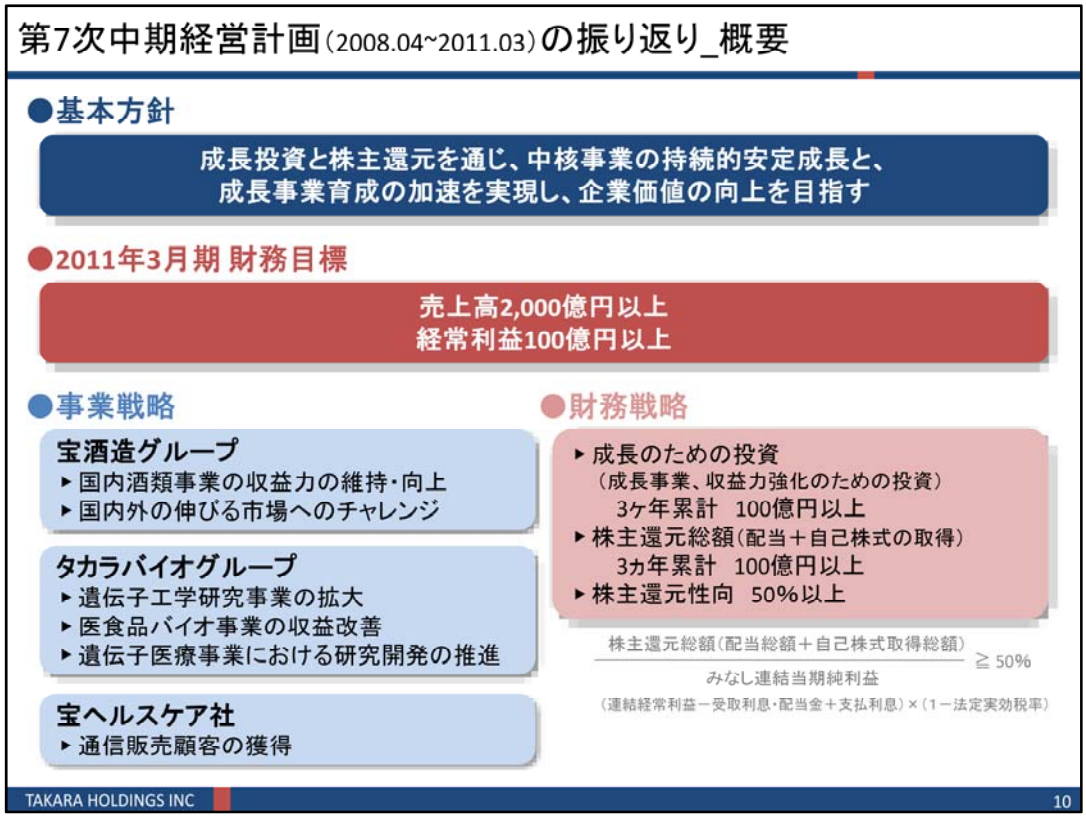
・フーデックス社の株式取得により、のれんの償却を差し引いて222百万円の利益押し上げ効果がありましたが、全体では560百万円減益の6,568百万円となりました。

・計画比でも、売上減少等による総利益の減少が影響し、営業利益は計画に届きませんでした。

・当期は、猛暑やデフレ、さらには震災の影響などにより、国内酒類事業を取り巻く環境は非常に厳しいものとなりました。

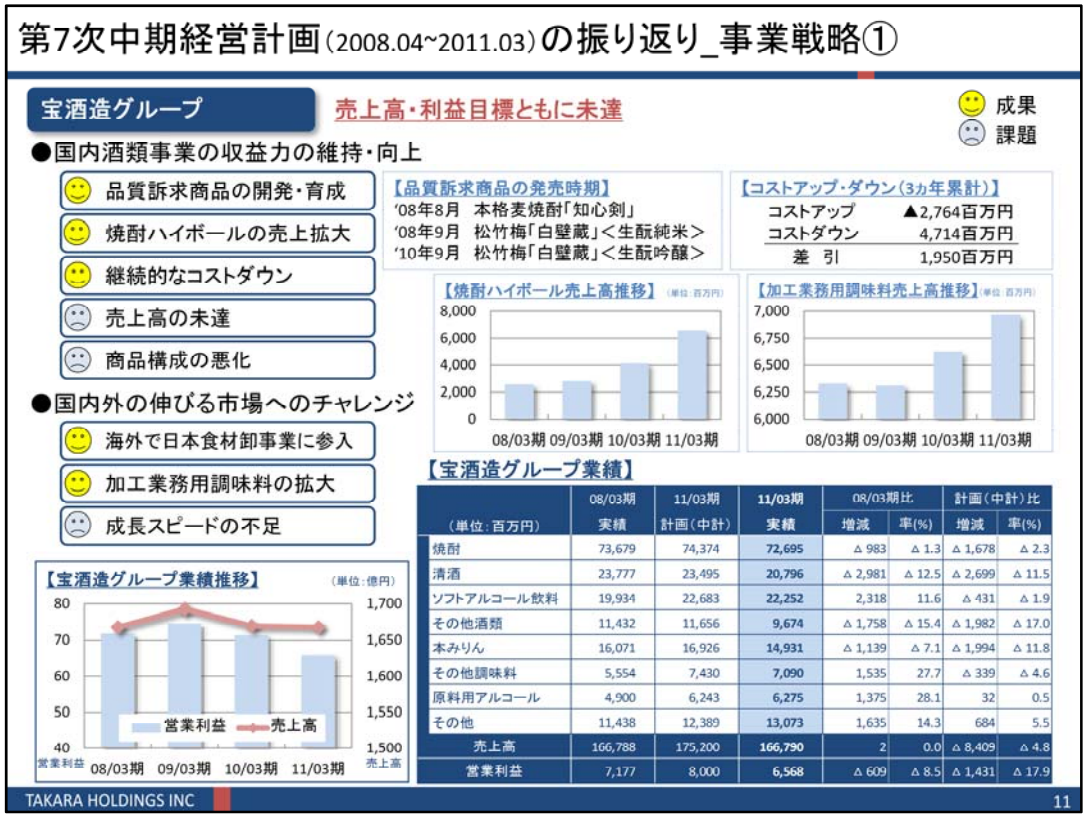


・TaKaRaグループ中期経営計画2013について説明します。



・まず、第7次中期経営計画を振り返ります。

・第7次中計では『成長投資と株主還元を通じ、中核事業の持続的安定成長と、成長事業育成の加速を実現し、企業価値の向上を目指す』という基本方針のもと、2011年3月期の売上高2,000億円以上、経常利益100億円以上を目指してきました。

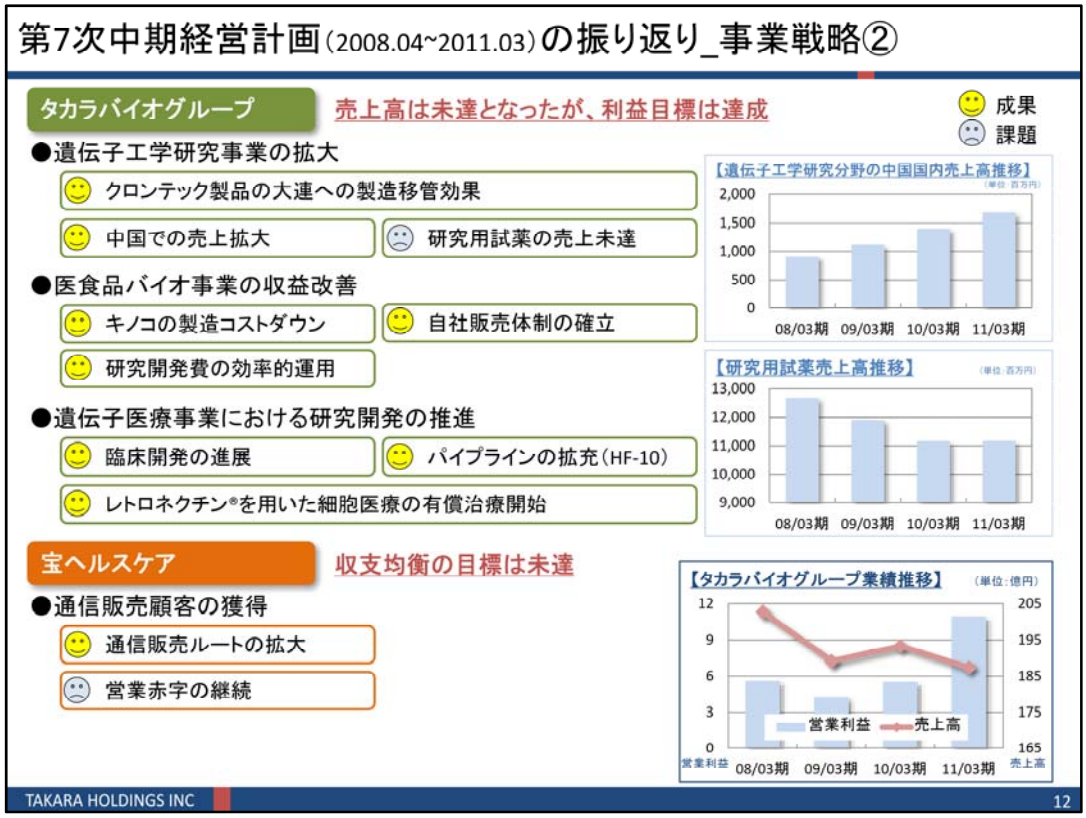


・第7次中計における各グループの事業戦略を振り返ります。
・まずは、宝酒造グループです。

・国内酒類事業では、収益力の維持・向上を目指し、品質訴求商品の開発・育成をすすめるとともに、消費者ニーズを捉えて、焼酎ハイボールの売上を拡大することができました。
・また、継続的なコストダウンにより、3ヵ年累計で1,950百万円のコストダウンを実現しました。
・しかしながら、売上高が当初の計画に及ばず、デフレの影響もあり商品構成が悪化したため、収益力を強化することはできませんでした。

・国内外の伸びる市場へのチャレンジでは、海外で日本食材卸事業への参入を果たし、将来に向けた布石を打つことができました。
・また、加工業務用調味料事業においては、売上高を着実に伸ばすことができました。
・しかしながら、成長スピードが不足し、当初計画していた売上高には届きませんでした。

・以上の通り、宝酒造グループでは売上高が未達となり、また、経済環境の変化の影響で商品構成も悪化したため、営業利益も当初の計画を達成することができませんでした。



・続いて、タカラバイオグループです。

・遺伝子工学研究事業では、クロンテック製品の大連への製造移管効果や、中国での売上拡大などにより、収益力を強化してきましたが、研究用試薬の売上高の点では、為替の影響もあり計画未達となりました。
・医食品バイオ事業では、キノコの製造コストダウン、自社販売体制の確立、研究開発費の効率的運用などにより、着実に収益を改善することができました。
・遺伝子医療事業では、臨床開発を推し進めるとともに、昨年にはHF-10事業を買収しパイプラインを拡充することができました。
・また、レトロネクチンを用いた細胞医療の有償治療も開始し、売上に貢献してきています。
・タカラバイオグループは、売上高こそ未達となりましたが、利益目標は達成し、過去最高の営業利益を上げることができました。

・宝ヘルスケア社では、第7次中計最終年度での収支均衡を目指し、通信販売ルートの売上高を拡大させてきましたが、営業赤字が継続する結果となりました。

第7次中期経営計画(2008.04~2011.03)の振り返り_財務戦略・定量目標

財務戦略

成果
課題

●成長のための投資

- フーデックス社の株式取得
- 米国宝酒造の設備増強
- 100億円の目標金額には未達

【成長のための投資(3カ年累計)】

フーデックス社の株式取得	35億円
米国宝酒造の設備増強	7億円
合　計	42億円

●株主還元

- 100億円以上の株主還元
- 株主還元性向50%以上

【株主還元(3カ年累計)】

配当総額(見込)	53億円
自己株式取得額	47億円
株主還元総額	100億円
株主還元性向	66.0%

定量目標

●2011年3月期　売上高2,000億円以上、経常利益100億円以上

- 売上高・経常利益とも未達

【連結業績推移】

【連結業績】

(単位:百万円)	08/03期 実績	11/03期 計画(中計)	11/03期 実績	08/03期比 増減	08/03期比 率(%)	計画(中計)比 増減	計画(中計)比 率(%)
宝酒造G	166,788	175,200	166,790	2	0.0	△ 8,409	△ 4.8
タカラバイオG	20,278	22,490	18,737	△ 1,540	△ 7.6	△ 3,752	△ 16.7
宝ヘルスケア	3,078	3,930	2,567	△ 510	△ 16.6	△ 1,362	△ 34.7
その他	1,733	2,580	1,673	△ 59	△ 3.4	△ 906	△ 35.1
売上高	191,878	204,200	189,769	△ 2,108	△ 1.1	△ 14,430	△ 7.1
宝酒造G	7,177	8,000	6,568	△ 609	△ 8.5	△ 1,431	△ 17.9
タカラバイオG	560	950	1,097	537	96.0	147	15.5
宝ヘルスケア	△ 500	10	△ 252	247	ー	△ 262	ー
その他	1,268	1,240	921	△ 346	△ 27.4	△ 318	△ 25.7
営業利益	8,506	10,200	8,335	△ 170	△ 2.0	△ 1,864	△ 18.3
経常利益	9,123	10,200	8,427	△ 695	△ 7.6	△ 1,772	△ 17.4
当期純利益	4,658	5,100	3,788	△ 870	△ 18.7	△ 1,311	△ 25.7

TAKARA HOLDINGS INC　13

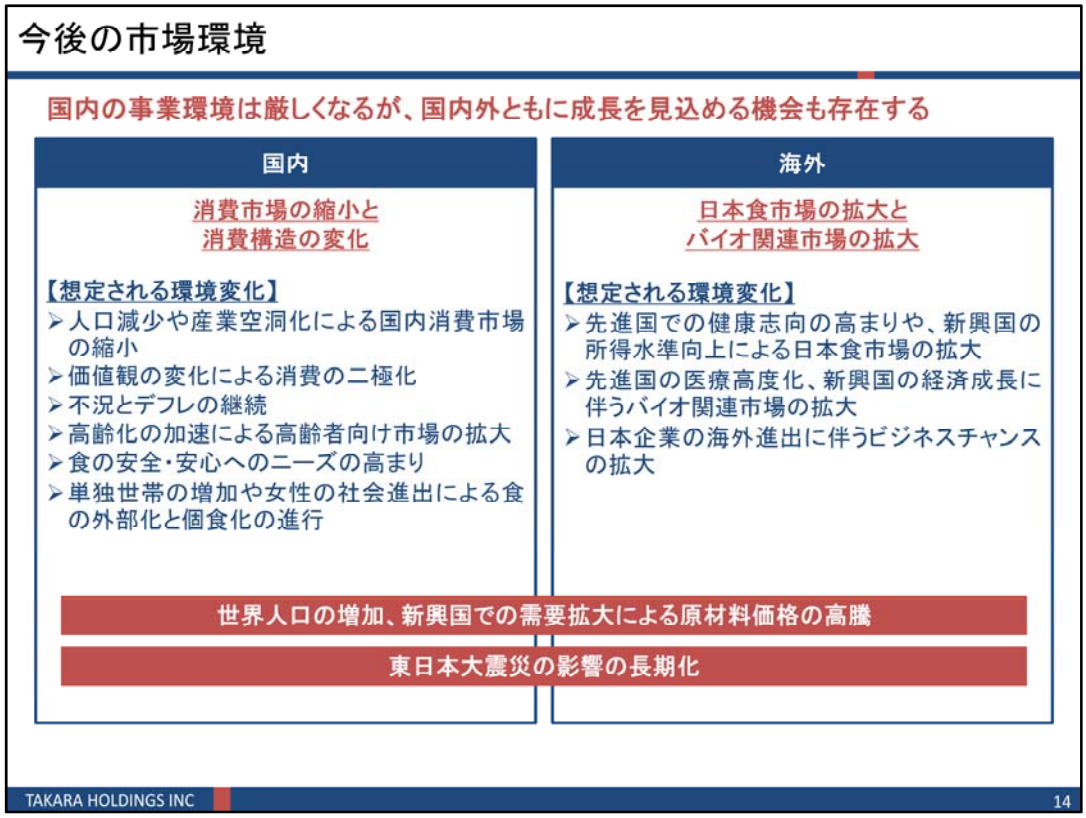
・財務戦略では、成長のための投資と積極的な株主還元を実施しました。

・成長のための投資は、フーデックス社の株式取得と、米国宝酒造の設備増強で42億円の投資を実施しましたが、100億円の目標金額には至りませんでした。

・株主還元では、目標に掲げた通り、配当と自己株式の取得を合わせ、株主還元総額100億円、株主還元性向50%以上を実施しました。

・第7次中計の定量目標である2011年3月期の売上高2,000億円以上、経常利益100億円以上については、売上高・経常利益ともに未達となりました。

・リーマンショックを起点とする経済環境の悪化など、外部要因によるところもありましたが、次の中計では、外部の環境要因に関わらず成長していけるよう、さらに環境変化に強い事業構造の確立を目指して、それぞれの施策を着実に実行していきます。

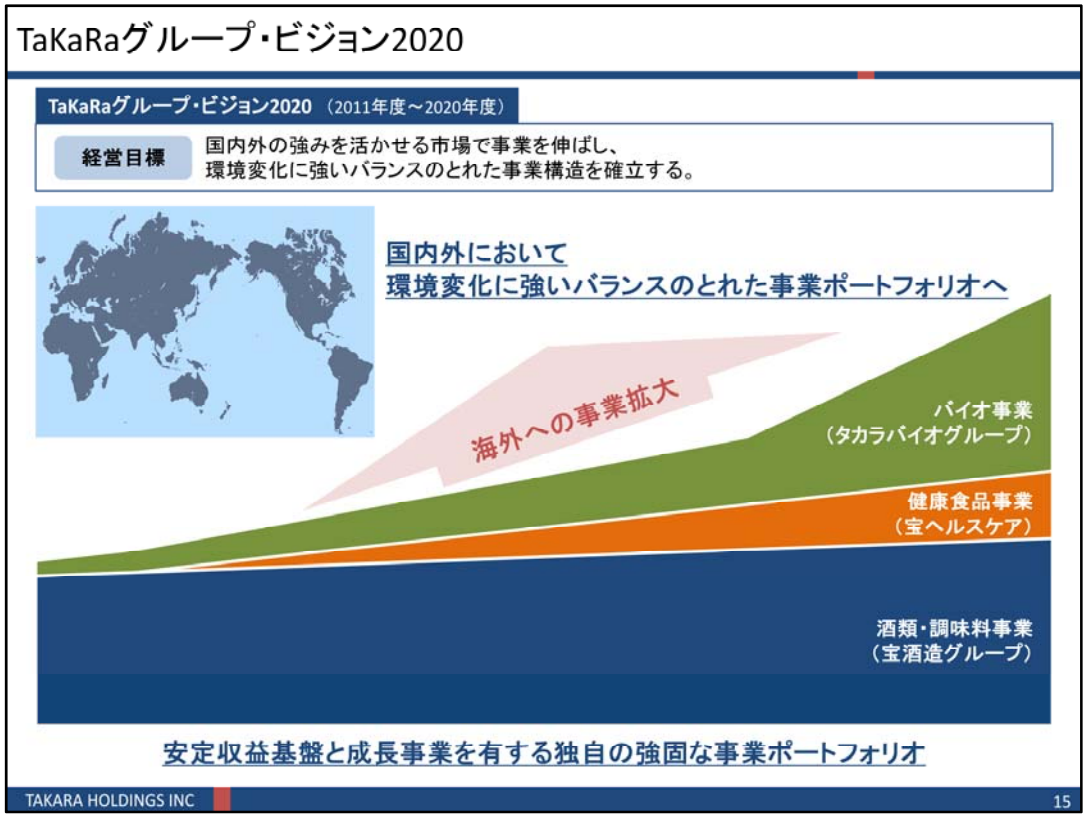


・次の中期経営計画を説明する前に、まずは今後の市場環境について確認します。

・国内では、人口減少等に伴う消費市場の縮小と、消費の二極化などの消費構造の変化が想定されます。
・海外では、先進国・新興国ともに、日本食市場の拡大およびバイオ関連市場の拡大が想定されます。

・また、国内外に共通の環境変化として、原材料価格の高騰が予想されるうえ、東日本大震災の影響が長期化する可能性もあります。

・総じて、国内の事業環境は厳しくなるものの、国内外ともに、成長を見込める機会が存在すると認識しています。



・このような環境変化を見据え、今年の4月から10年間の長期経営ビジョンである「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けて、新たなスタートを切りました。

・TaKaRaグループでは、前回の10年間の長期経営構想において、2002年4月に持株会社体制に移行し、2004年12月にはタカラバイオの上場を果たしました。

・そして、この体制のもとで、酒類・調味料事業という安定収益基盤と、バイオ事業と健康食品事業という成長事業を有する、独自の強固な事業ポートフォリオを築いてきました。

・具体的には、宝酒造グループでは、少子化・高齢化による酒類消費数量の減少、さらには、リーマンショックやデフレといった、厳しい環境の中で、国内酒類事業において、全量芋焼酎「一刻者」や、本格麦焼酎「知心剣」など、多数のブランドを育成する戦略をとり、安定的な収益を稼ぎ出してきました。

・さらに、加工業務用の調味料市場への本格的な参入や、工業用アルコール市場、および海外の日本食材卸事業への参入、また、不採算部門であった、清涼飲料事業からの撤退など、将来に向けた布石を打ってきました。

・タカラバイオグループでは、欧米の大手バイオ企業が積極的にM&Aを進めたことによる寡占化や、バイオ研究の領域の拡がりによる、新製品開発競争の激化など、試薬ビジネスを取り巻く環境が厳しさを増す中で、米国のクロンテック社をグループに加え、世界的な販売網の構築や、中国大連への製造移管によるコストダウンに取り組み、安定した利益を得られるまでに成長させてきました。

・また、細胞医療での有償治療の開始、遺伝子治療での臨床開発の進展など、遺伝子医療事業の商業化に向けて着実に布石を打ってきました。

・さらに、宝酒造グループのマーケティング力と、タカラバイオグループの技術力を活かして健康食品事業を行う宝ヘルスケア社を設立し、将来の成長に向けて体制を整えました。

・次の10年間においては、国内酒類事業でしっかりと利益を稼ぎ出してグループ全体を支え、海外酒類事業と、日本食材卸事業を中心に、海外での事業を伸ばし、さらには、遺伝子医療事業の商業化を実現させて、グループ全体で飛躍的に成長していきたいと考えています。

・前述の「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けた実行計画の第1ステップとして策定したのが「TaKaRaグループ中期経営計画2013」です。

・この中計では、『「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けて、国内での安定成長を実現するとともに、海外で大きく成長するための、事業基盤を拡大する』ことを基本方針に掲げ、定量目標として、2014年3月期の売上高2,000億円以上、営業利益100億円以上を目指すとともに、海外売上高比率10%以上、成長事業と育成事業の売上高比率25%以上を目指します。

・なお、売上高および営業利益については、前回の中計と同じ水準の目標ですが、将来のさらなる成長に向けて、まずはこの水準をクリアしたいと考えています。

・各事業の方針について説明します。

・基盤事業に位置付けている、国内酒類事業については、新商品の開発、ブランドの育成、収益力の強化を3本柱に、グループの中核事業として、安定的なキャッシュフローを生み出し、グループ全体の成長を支えることを目指します。

・次に、成長事業です。
・宝酒造グループの海外事業である海外酒類事業と日本食材卸事業では、海外における清酒やみりんの売上拡大と、日本食材卸販売網の構築による成長を目指します。
・調味料・酒精事業は、今年の4月から、調味料と酒精の事業を統合しましたが、まずは、加工業務用調味料と酒精のそれぞれの分野での売上拡大を目指し、さらに、事業統合の相乗効果を活かして、BtoBビジネスとしての拡大を目指します。

・遺伝子工学研究事業は、タカラバイオグループにおいては、基盤事業としてしっかりと収益を生み出していますが、海外を中心に、より一層の成長が可能な事業として、グループ全体の中では成長事業に位置付けています。
・その、遺伝子工学研究事業では、研究開発の生産性を向上させ、基盤技術の開発を推進するとともに、新興国を含めた、国内外の市場の積極的な開拓を進めていきます。

・育成事業に位置付けている、健康食品事業では、ガゴメ昆布フコイダンを中心に売上を拡大し、早期の黒字化を目指します。

・遺伝子医療事業では、遺伝子治療の商業化を目指し、積極的に臨床開発を推進するとともに、培地やバッグなどの、細胞医療用製品の売上拡大と、遺伝子治療用ベクターの製造など、臨床開発支援事業の拡大を目指します。

定量目標

連結売上高・営業利益

（単位：百万円）	11/03期 実績	14/03期 計画	11/03期比 増減	11/03期比 率(%)
売上高	189,769	200,000	10,230	5.4
営業利益	8,335	10,000	1,664	20.0

海外売上高

（単位：百万円）	11/03期実績 金額	11/03期実績 海外比率(%)	14/03期計画 金額	14/03期計画 海外比率(%)	11/03期比 増減	11/03期比 率(%)
宝酒造G	7,528	4.5%	11,500	6.4%	3,971	52.8
タカラバイオG	7,187	38.4%	8,500	37.4%	1,312	18.3
海外売上高（連結）	14,716	7.8%	20,000	10.0%	5,283	35.9

成長事業＋育成事業売上高

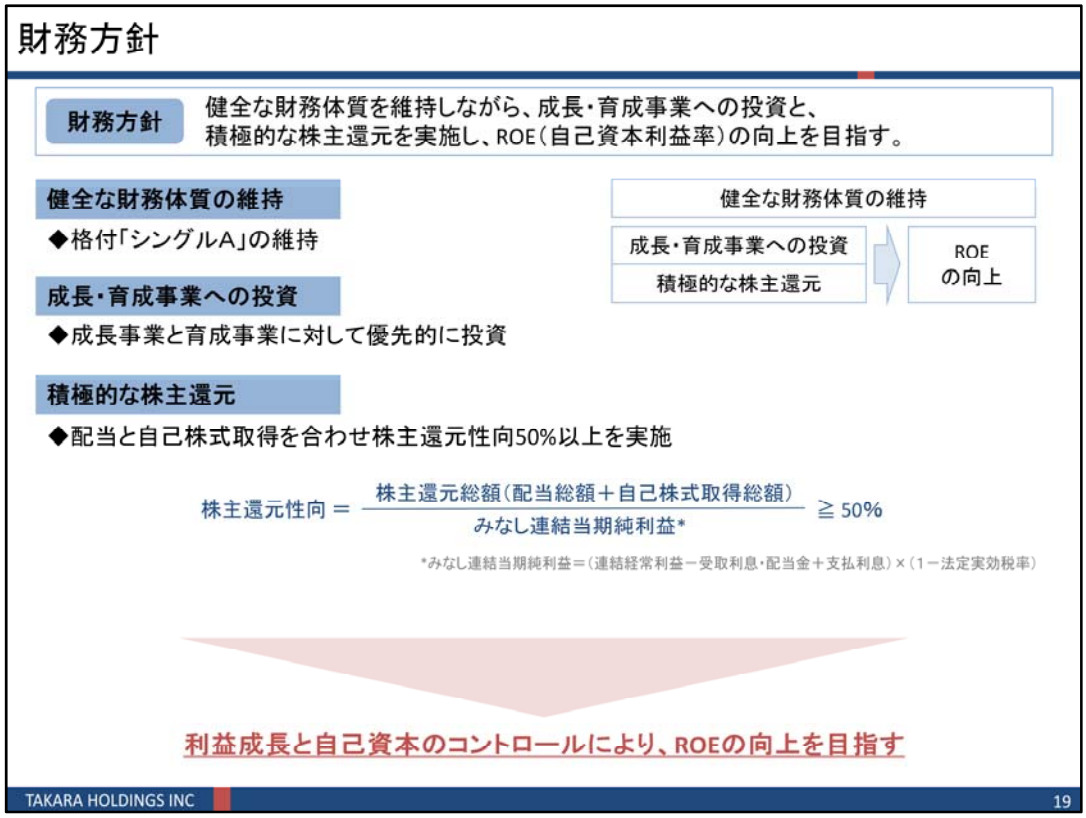
（単位：百万円）		11/03期実績 金額	11/03期実績 比率(%)	14/03期計画 金額	14/03期計画 比率(%)	11/03期比 増減	11/03期比 率(%)
成長事業	●海外酒類事業、日本食材卸事業 ●調味料・酒精事業 ●遺伝子工学研究事業	36,677	19.3%	45,000	22.5%	8,322	22.7
育成事業	●健康食品事業 ●遺伝子医療事業	3,217	1.7%	5,000	2.5%	1,782	55.4
成長事業＋育成事業		39,895	21.0%	50,000	25.0%	10,104	25.3

TAKARA HOLDINGS INC 18

・定量目標です。
・売上高2,000億円以上、営業利益100億円以上を目指します。

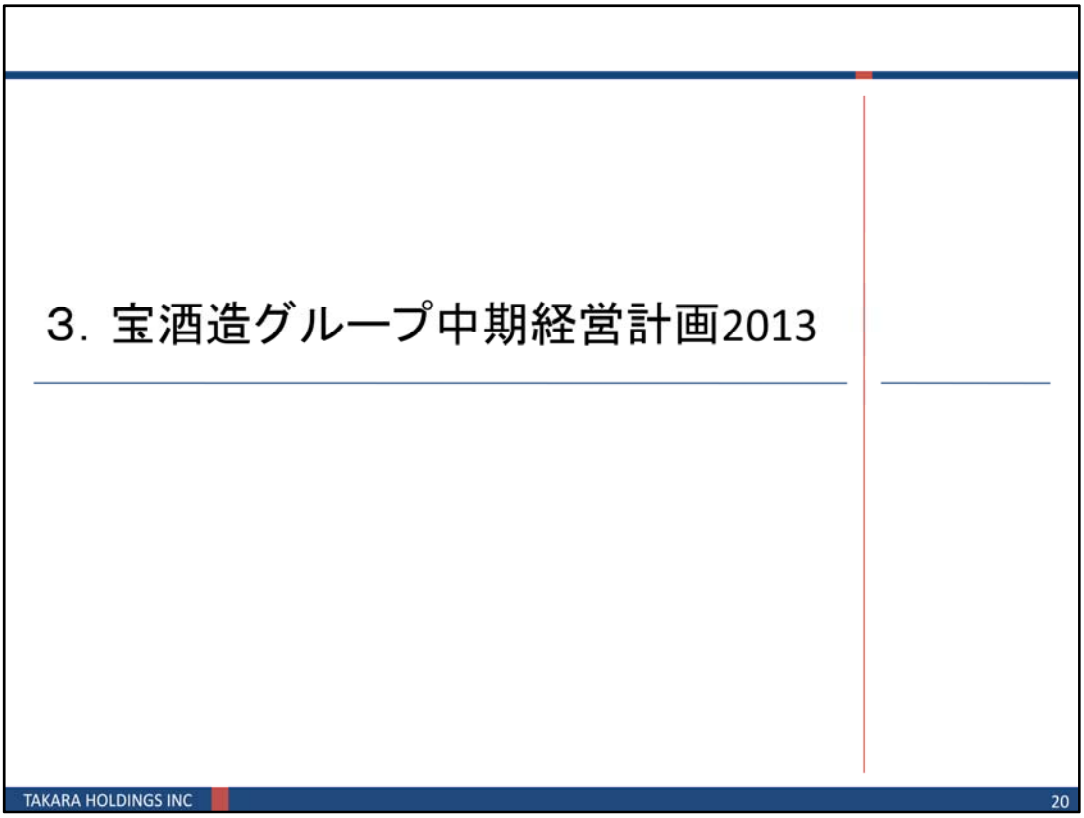
・また、TaKaRaグループとして、初めて海外売上高比率の目標を掲げています。
・その目標は、宝酒造グループで115億円、タカラバイオグループで85億円、グループ全体では売上高比率10%の200億円以上ですが、中長期的には、海外売上高比率をさらに高めていきたいと考えています。

・さらに、成長事業と育成事業においても売上高比率の目標を掲げ、成長事業で450億円、育成事業で50億円の合計500億円、売上高比率にして25%以上を目指します。



・財務方針では、健全な財務体質を維持しながら、成長事業と育成事業に対して優先的に投資を行い、また、配当と自己株式取得を合わせた株主還元性向で50%以上となる積極的な株主還元を実施します。

・成長・育成事業への投資を通じた利益成長と、株主還元による自己資本のコントロールにより、ROEの向上を目指します。



・宝酒造グループの中期経営計画について説明します。

宝酒造グループ中期経営計画2013（2011.04~2014.03）

基本方針 国内は、酒類事業の収益力強化およびBtoB事業の拡大、
海外は、日本食材卸販売網の構築に取り組む。

定量目標 2014年3月期　売上高 1,800億円、営業利益 77億円

（単位：百万円）	11/03期 実績	14/03期 計画	11/03期比 増減	11/03期比 率(%)
焼酎	72,695	**72,200**	△ 495	△ 0.7
清酒	20,796	**21,400**	603	2.9
ソフトアルコール飲料	22,252	**30,000**	7,747	34.8
その他酒類	9,674	**9,800**	125	1.3
本みりん	14,931	**15,900**	968	6.5
その他調味料	7,090	**8,000**	909	12.8
原料用アルコール	6,275	**7,700**	1,424	22.7
その他	13,073	**15,000**	1,926	14.7
売上高	166,790	**180,000**	13,209	7.9
営業利益	6,568	**7,700**	1,131	17.2

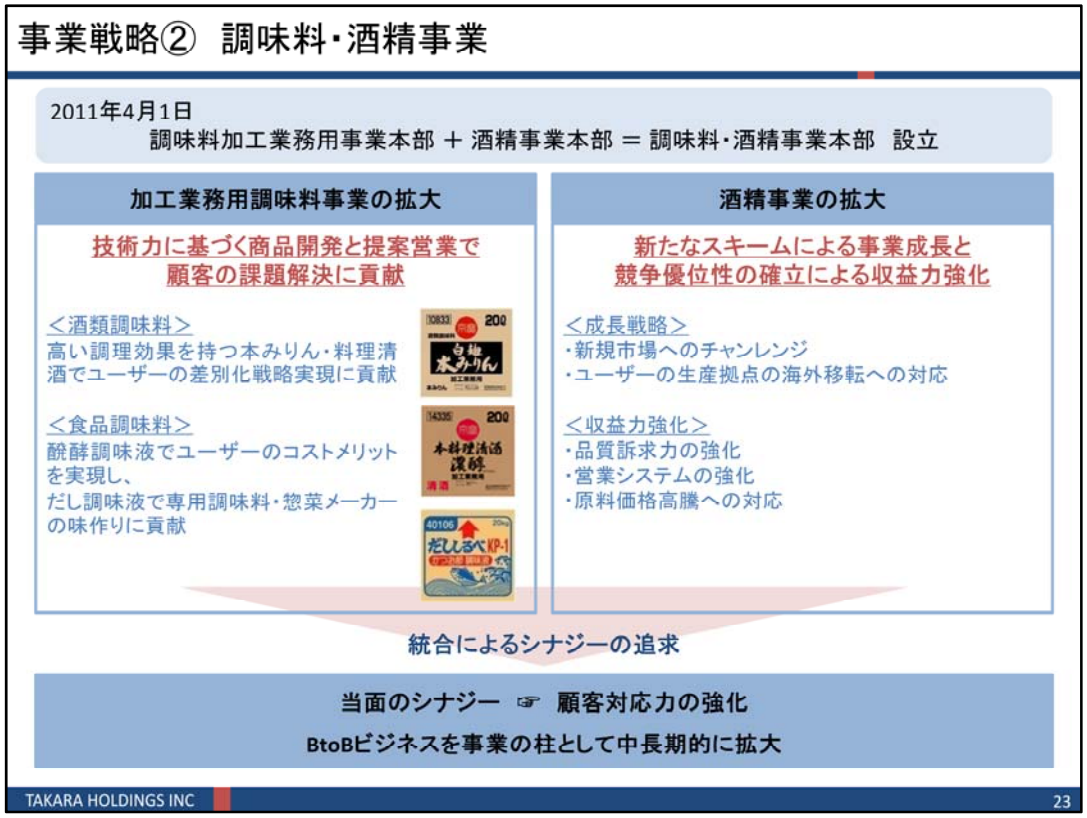
TAKARA HOLDINGS INC　21

・宝酒造グループでは、『国内は、酒類事業の収益力強化およびBtoB事業の拡大、海外は、日本食材卸販売網の構築に取り組む』ことを基本方針に掲げ、定量目標として売上高1,800億円、営業利益77億円を目指します。

・中期経営計画における各事業の戦略について説明します。

・まず、国内酒類事業です。
・国内では、人口減少や高齢化、さらには若年層の酒離れが進行し、酒類の市場は今後も縮小傾向が続くと予想されます。
・一方で、価値観の変化や消費の二極化が進み、新たな飲用シーンや需要が発生することも考えられます。
・また、大きな流れとして、原材料価格の高騰、デフレの進行、景気低迷など、厳しい市場環境が続くことが予想されます。

・宝酒造グループでは、これまで、既存商品のブランド育成に重点を置いてきましたが、今後は、それに加えて、新商品の開発スピードを上げ、様々な消費者ニーズに、きめ細やかに対応できる新商品を積極的に投入し、売上の拡大を目指します。



・次に、調味料・酒精事業です。

・酒精事業とは、清酒メーカー・食品メーカー・化粧品メーカーなどに原料としてアルコールを販売するビジネスですが、前述の通り今年の4月に調味料加工業務用事業本部と酒精事業本部を統合し、調味料・酒精事業本部を設立しました。

・この事業本部において、まずは、加工業務用調味料と酒精のそれぞれの分野での事業拡大と、両方の事業に共通するお客様に対する提案力を強化することを目指し、将来的には宝酒造グループの事業の柱となるようBtoBビジネスとしての拡大を目指します。

事業戦略③　海外事業

【事業展開】　2010年4月30日　仏フーデックス社の株式を取得し、日本食材卸事業に参入
【市場環境】　先進国での健康志向の高まり、新興国での所得水準の向上
☞日本食市場の拡大

海外酒類事業の拡大

日本食レストラン市場におけるシェアアップと量販チャネルにおける間口拡大

＜米国宝酒造＞
・西海岸の日本食レストラン市場でのシェア維持
・東海岸の日本食レストラン市場の開拓促進
・米系量販チャネルの間口拡大
・清酒の品質向上と安定供給

＜宝酒造食品（中国）＞
・中国国内の日本食レストランでの間口拡大
・大手量販チャネルへの侵攻促進
・大都市圏での売上拡大と未開拓地区への侵攻

日本食材卸販売網の構築

海外における販売網を構築・拡大

＜フーデックス社＞
・欧州における流通網の拡大
　→ベルギーに子会社を設立（2011年3月）
・欧州の日本食レストランへのアプローチ強化

【フーデックス社　売上高・営業利益（計画）】

（単位：百万円）	11/03期 実績	14/03期 計画（中計）	11/03期比 増減	11/03期比 率(%)
売上高	2,531	4,730	2,198	86.9
営業利益	322	564	242	75.2

日本食文化を世界に広める

日本の酒類と食材を組み合わせた提案による、新規販路獲得・間口拡大

TAKARA HOLDINGS INC　24

・次に、海外事業です。

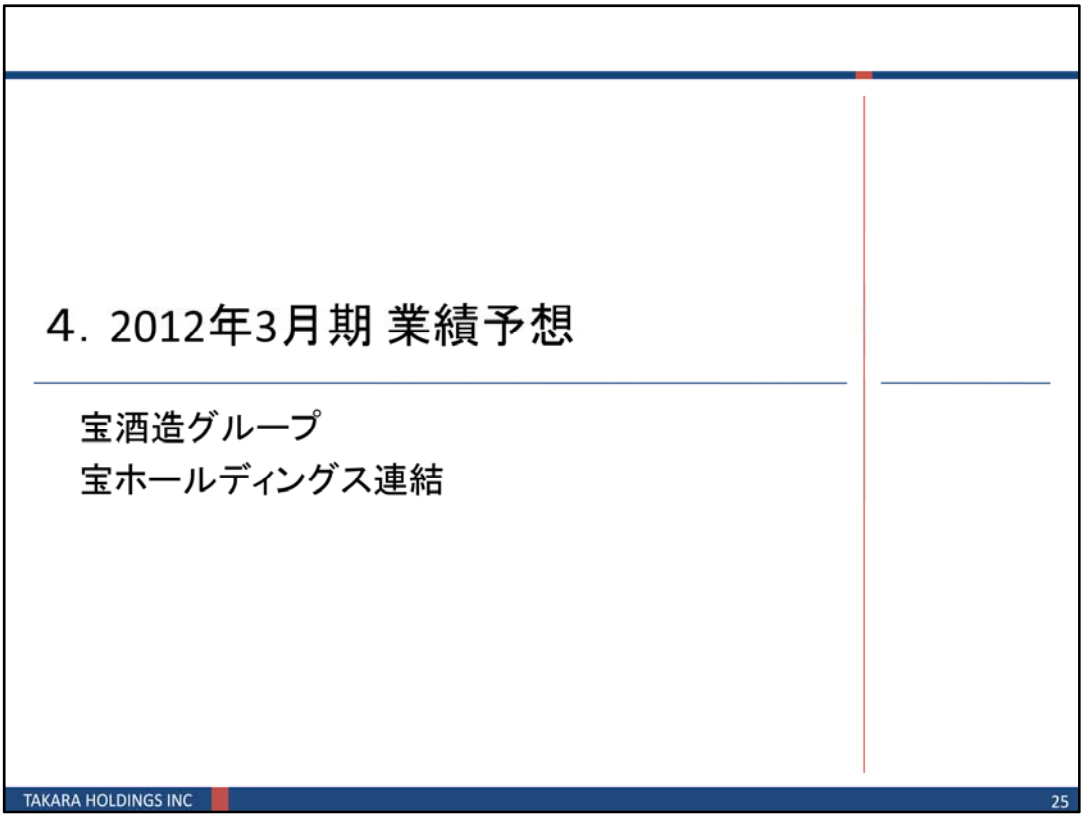
・海外事業を取り巻く環境として、先進国での健康志向の高まりや、新興国での所得水準の向上を受け、今後も日本食市場の拡大が予想されます。

・このような市場環境の中、まず、海外酒類事業では、米国・中国を中心に日本食レストラン市場における当社製品のシェアアップと、量販チャネルにおける間口拡大を目指します。

・また、日本食材卸事業では、海外における販売網の構築と拡大を目指します。
・昨年の4月に株式を取得したフーデックス社では、ベルギーに子会社を設立するなど流通網の拡大に取り組んでいます。

・海外酒類事業と日本食材卸事業を通じて、日本食文化をさらに世界に広めるとともに、日本の酒類と食材の両方を持つという強みを活かし、新たな販路の獲得と、間口拡大を目指します。

・先ほど、海外売上高比率の定量目標として説明した通り、宝酒造グループでは2014年3月期の海外売上高115億円を目指していますが、この目標を早期にクリアし、さらに成長させていきたいと考えています。



最後に、2012年3月期の業績予想について説明します。

宝酒造G_2012年3月期 業績予想

（単位：百万円）	12/03期 計画	前期比 増減	前期比 率(%)
焼酎	74,000	1,304	1.8
清酒	20,400	△ 396	△ 1.9
ソフトアルコール飲料	25,800	3,547	15.9
その他酒類	9,700	25	0.3
本みりん	15,000	68	0.5
その他調味料	7,700	609	8.6
原料用アルコール等	6,600	324	5.2
その他	14,600	1,526	11.7
売上高	173,800	7,009	4.2
売上原価	108,600	4,397	4.2
売上総利益	65,200	2,612	4.2
運送費、保管料	6,600	231	3.6
広告宣伝費	3,600	323	9.9
販売促進費等	31,400	1,554	5.2
研究開発費	450	61	15.9
管理費、その他	16,450	309	1.9
販管費	58,500	2,481	4.4
営業利益	6,700	131	2.0

●売上高の主な増減理由

【宝酒造単体・前期比】（単位：百万円）

<焼酎>

焼酎甲類 +864
焼酎乙類 +535

<ソフトアルコール飲料>

焼酎ハイボール +2,562
直搾り +1,667

<その他調味料>

料理清酒 +508

<その他>

フーデックス社 +1,191

●コストアップ・ダウン

【宝酒造単体・前期比】（単位：百万円）

<コストアップ>

粗アル、重油、天然ガス、糖など ▲1,011

<コストダウン>

PETボトル、米など +1,110

●営業利益の増減内訳（単位：百万円）

宝酒造単体 +77
フーデックス社 +146
フーデックス社ののれん償却費増加 ▲29
その他 ▲62

<フーデックス社 業績予想>

（単位：百万円）	11/03期 実績	12/03期 計画	11/03期比 増減	11/03期比 率(%)
売上高	2,531	3,723	1,191	47.1
営業利益	322	468	146	45.4

*11/03期：2010年4-12月（9ヶ月）、12/03期：2011年1-12月（12ヶ月）

TAKARA HOLDINGS INC 26

・宝酒造グループの2012年3月期の業績予想です。

・売上高は、『焼酎』で1,304百万円、『ソフトアルコール飲料』で3,547百万円の増収、フーデックス社の売上高を含む『その他』で1,526百万円の増収などを見込み、前期比7,009百万円増収の173,800百万円を計画しています。

・売上高の伸びによって、売上総利益は2,612百万円の増益となりますが、販管費の増加を見込み、営業利益は前期比131百万円増益の6,700百万円を計画しています。

宝HLD連結_2012年3月期 業績予想

（単位：百万円）	12/03期 計画	前期比 増減	前期比 率(%)
宝酒造G	173,800	7,009	4.2
タカラバイオG	19,800	1,062	5.7
宝ヘルスケア	2,400	△ 167	△ 6.5
その他	1,299	△ 374	△ 22.4
売上高	197,300	7,530	4.0
売上原価	119,700	4,219	3.7
売上総利益	77,600	3,310	4.5
販管費	69,200	3,246	4.9
宝酒造G	6,700	131	2.0
タカラバイオG	1,100	2	0.3
宝ヘルスケア	△ 120	132	—
その他	719	△ 202	△ 21.9
営業利益	8,400	64	0.8
経常利益	8,700	272	3.2
当期純利益	4,000	211	5.6

●グループ別トピックス

＜総括＞
宝酒造グループで大幅な増収計画。
グループ全体でも増収・増益の計画。

＜宝酒造グループ＞
焼酎・ソフトアルコール飲料を中心とする大幅な売上増加、フーデックス社の年間寄与などにより増収・増益の計画。

＜タカラバイオグループ＞
研究用試薬を中心に増収の計画。
遺伝子医療分野での研究開発費増加を見込み、営業利益は当期並みの計画。

＜宝ヘルスケア＞
利益改善の計画。
2013年3月期の黒字化を目指す。

●営業外・特別損益

（単位：百万円）	12/03期 計画	前期比 増減	前期比 率(%)
営業外収益	900	△ 23	△ 2.6
営業外費用	600	△ 231	△ 27.8
営業外損益収支	300	207	225.0
特別利益	200	△ 367	△ 64.8
特別損失	1,300	△ 189	△ 12.7
特別損益収支	△ 1,100	△ 177	19.3

TAKARA HOLDINGS INC 27

・宝ホールディングス連結の2012年3月期の業績予想です。

・売上高は、宝酒造グループ・タカラバイオグループともに増収の計画で、グループ全体では7,530百万円増収の197,300百万円を計画しています。

・利益面では、営業利益は前期並みの8,400百万円、経常利益は前期比272百万円増益の8,700百万円、当期純利益は前期比211百万円増益の4,000百万円を計画しています。

・今年は、長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」および「TaKaRaグループ中期経営計画2013」の1年目として、再び増収・増益となる良いスタートを切りたいと考えています。

・以上で、私からの説明を終了します。ご静聴ありがとうございました。

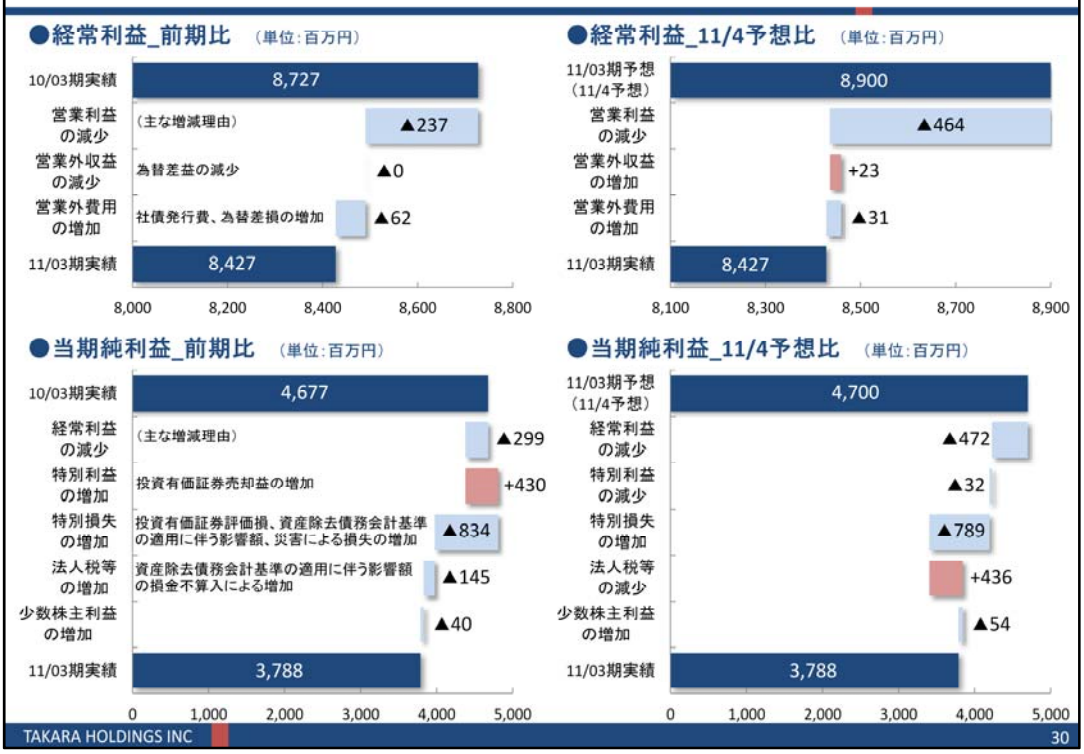
資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

＜お問合せ＞
宝ホールディングス株式会社　IR室
Tel. 075-241-5124
E-Mail　ir@takara.co.jp

＜参考資料＞

宝HLD連結_経常利益・当期純利益増減分析（2011年3月期）



宝HLD連結_包括利益計算書（2011年3月期）

（単位：百万円）	10/03期 実績	11/03期 実績	増減
少数株主損益調整前当期純利益	4,891	**4,042**	△ 849
その他の包括利益合計	2,222	**△ 3,570**	△ 5,793
その他有価証券評価差額金	1,646	**△ 1,260**	△ 2,906
繰延ヘッジ損益	37	**△ 40**	△ 78
為替換算調整勘定	545	**△ 2,227**	△ 2,772
持分法適用会社に対する持分相当額	△ 7	**△ 42**	△ 35
包括利益	7,113	**471**	△ 6,642
（内訳）			
親会社株主に係る包括利益	6,821	**633**	△ 6,188
少数株主に係る包括利益	291	**△ 161**	△ 453

宝HLD連結_B/S概要：資産（2011年3月期末）

（単位：億円）	10/03末	11/03末	増減
流動資産	1,207	1,197	△ 10
現金及び預金	315	327	12
受取手形及び売掛金	457	451	△ 6
有価証券	142	126	△ 16
たな卸資産	242	242	0
その他	49	48	△ 0
固定資産	747	727	△ 20
有形固定資産	429	416	△ 12
無形固定資産	39	60	20
投資その他資産	278	250	△ 27
投資有価証券	210	185	△ 25
その他	67	65	△ 2
資産合計	1,954	1,924	△ 30

●主な増減理由 （単位：億円）

- 現金及び預金 12 → TH Δ 23.3、TB ＋36.6
- 受取手形及び売掛金 △ 6 → TS Δ 8.8
- 有価証券 △ 16 → TH ＋15.0、TB Δ 30.4
- 有形固定資産 △ 12 / 無形固定資産 20 → 当期の有形・無形固定資産の増減内訳
  - 新規取得 ＋37.3 （TS ＋27.3、TB ＋9.2）
  - 減価償却 Δ 45.5 （TS Δ 32.8、TB Δ 11.2）
  - その他増減 ＋15.7
- 投資有価証券 △ 25 → TH Δ 25.5 （時価評価差額 Δ 18.7 他）

（TH：宝HLD、TS：宝酒造グループ、TB：タカラバイオグループ）

宝HLD連結_B/S概要：負債・純資産（2011年3月期末）

（単位：億円）	10/03末	11/03末	増減
流動負債	516	414	△ 102
支払手形及び買掛金	139	134	△ 4
借入金・社債	151	51	△ 99
その他	225	227	2
固定負債	346	441	94
借入金・社債	155	255	99
その他	190	185	△ 5
負債合計	862	855	△ 7
株主資本合計	955	963	7
資本金・資本剰余金	164	164	△ 0
利益剰余金	837	857	19
自己株式	△ 46	△ 58	△ 12
その他包括利益累計額	11	△ 20	△ 31
少数株主持分	125	125	0
純資産合計	1,092	1,068	△ 23

●主な増減理由 （単位：億円）

- TS △ 2.0、TB △ 1.6
- TH △ 99.9（第5回普通社債 2010年7月償還 △ 50.0）
  （シンジケートローン 2011年1月返済 △ 50.0）
- TH ＋100.0 （第10回・11回普通社債 2010年5月発行）
- 自己株式取得 TH △11.7
  2010年5月-6月に市場買付にて取得（株主還元策）
  ・取得株数 2,500,000株
  ・取得金額 1,178,565,000円
- その他有価証券評価差額金 TH △ 11.4

（TH：宝HLD、TS：宝酒造グループ、TB：タカラバイオグループ）

宝HLD連結_キャッシュ・フロー（2011年3月期）

（単位：億円）	10/03期 実績	11/03期 実績	増減
営業CF ①	104	94	Δ 9
税金等調整前当期純利益	82	75	Δ 7
減価償却費	48	45	Δ 2
その他償却費	9	8	Δ 1
運転資本増減	Δ 0	0	1
法人税等の支払額	Δ 42	Δ 36	6
その他	7	1	Δ 6
投資CF ②	Δ 73	Δ 113	Δ 39
固定資産の取得	Δ 31	Δ 31	Δ 0
固定資産の売却	0	0	0
有価証券・投資有価証券の取得	Δ 1	Δ 36	Δ 34
有価証券の売却・償還	25	22	Δ 3
投資有価証券の売却	1	8	7
関係会社株式・出資金の取得	—	—	—
関係会社株式・出資金の売却	—	0	0
連結範囲の変更を伴う子会社株式・出資金の取得等による支出	—	Δ 33	Δ 33
その他	Δ 66	Δ 44	22
フリーCF ①+②	31	Δ 18	Δ 49

（内訳）	10/03	11/03	増減
売上債権	5	9	3
棚卸資産	Δ 2	Δ 4	Δ 2
仕入債務*	Δ 4	Δ 4	0

（*未払酒税含む）

財務CF Δ 31億円

（内訳）	10/03	11/03
配当金の支払	Δ 18	Δ 17
自己株式取得・売却	Δ 13	Δ 12
ファイナンスによる収入	3	100
ファイナンスによる支出	Δ 1	Δ 100
その他	Δ 1	Δ 2
現金及び現金同等物増減	Δ 0	Δ 52
現金及び現金同等物残高	336	283

宝HLD連結_P/L概要（2012年3月期 第2Q累計 業績予想）

（単位：百万円）	12/03期 2Q累計計画	前期比 増減	前期比 率(%)
宝酒造G	84,000	3,245	4.0
タカラバイオG	8,654	211	2.5
宝ヘルスケア	1,350	△ 166	△ 11.0
その他	495	△ 263	△ 34.7
売上高	94,500	3,027	3.3
売上原価	58,500	2,431	4.3
売上総利益	36,000	595	1.7
販管費	33,700	1,544	4.8
宝酒造G	2,060	△ 724	△ 26.0
タカラバイオG	2	△ 192	△ 98.9
宝ヘルスケア	△ 120	△ 4	ー
その他	357	△ 27	△ 7.2
営業利益	2,300	△ 948	△ 29.2
経常利益	2,400	△ 834	△ 25.8
当期純利益	900	△ 478	△ 34.7

宝酒造G_P/L概要（2012年3月期 第2Q累計 業績予想）

（単位：百万円）	12/03期 2Q累計計画	前期比 増減	前期比 率(%)
焼酎	37,200	△ 250	△ 0.7
清酒	7,100	△ 254	△ 3.5
ソフトアルコール飲料	14,500	2,772	23.6
その他酒類	4,600	△ 157	△ 3.3
本みりん	7,000	△ 84	△ 1.2
その他調味料	3,600	267	8.0
原料用アルコール等	2,800	△ 41	△ 1.5
その他	7,200	995	16.0
売上高	84,000	3,245	4.0
売上原価	53,140	2,368	4.7
売上総利益	30,860	877	2.9
運送費、保管料	3,200	204	6.8
広告宣伝費	1,900	247	15.0
販売促進費等	15,400	990	6.9
研究開発費	200	12	6.8
管理費、その他	8,100	146	1.8
販管費	28,800	1,601	5.9
営業利益	2,060	△ 724	△ 26.0

為替レート（子会社P/L換算用レート）

●単年度

（単位：円）	10/03期 (09年1月-12月)	11/03期 (10年1月-12月)				12/03期 (11年1月-12月)	
	実績	11/4予想	実績	前期差	11/4予想差	予想	前期差
ドル	93.65	87.00	**87.79**	-5.86	+0.79	80.00	-7.79
ポンド	146.61	135.00	**135.53**	-11.08	+0.53	130.00	-5.53
ユーロ	130.36	115.00	**116.28**	-14.08	+1.28	110.00	-6.28
元	13.71	12.90	**12.96**	-0.75	+0.06	12.50	-0.46
100ｳｫﾝ	7.37	7.50	**7.59**	+0.22	+0.09	7.00	-0.59

【FOODEX社のP/L換算レート】
1ユーロ=113.28円（2010年4-12月平均）

●中期経営計画

（単位：円）	08/03期 (07年1月-12月)	11/03期 (10年1月-12月)				14/03期 (13年1月-12月)	
	実績	予想（第7次中計）	実績	08/03期差	予想差	予想（中計2013）	11/03期差
ドル	117.86	110.00	**87.79**	-30.07	-22.21	80.00	-7.79
ポンド	235.90	220.00	**135.53**	-100.37	-84.47	130.00	-5.53
ユーロ	161.31	150.00	**116.28**	-45.03	-33.72	110.00	-6.28
元	15.49	15.00	**12.96**	-2.53	-2.04	12.50	-0.46
100ｳｫﾝ	12.70	12.00	**7.59**	-5.11	-4.41	7.00	-0.59